

指定管理者制度導入施設の第三者モニタリング・評価により把握された内容（非公募妥当性確認）（令和7年度）

1 概要

施設名	吹田市資源リサイクルセンター	所管部室課名	環境部環境政策室
実施日時	令和7年10月28日（火）午後1時～午後2時15分 令和7年11月25日（火）午前10時～午後0時 令和7年12月16日（火）午後3時～午後4時	実施場所	吹田市資源リサイクルセンター 講義室2 吹田市役所 災害対策本部会議室 吹田市役所 リエゾンルーム

2 委員からのコメントの内容

評価項目	評価基準	委員コメント
1 吹田市第3次環境基本計画及び吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画に基づく環境施策への貢献	（1）持続可能なライフスタイルを実践する人材を“はぐくむ”（環境計画-重点戦略Ⅰ（p17））	地域において環境保全活動を担う人材の育成に関する取組 ・自主事業は定員制で募集され、概ね定員を充足しており、受託事業も広報活動の強化が必要であることを認識していますので、問題ないと判断します。吹田の誇れる施設であることから、一般の現役世代が見学できるとより良いと考えます。 ・市民研究所をはじめ、他市にはない独自の取組が多くみられ、吹田市における環境政策の推進に大きく貢献しています。 ・継続的に事業を実施している一方で、幅広い世代の巻き込み方等は工夫できる余地がまだ残されています。 ・他施設の来訪にあわせて立ち寄りやすいロケーションではないため、イベント開催数の増加など、さらなる取組が引き続き望まれます。
	（2）環境を中心とした多様な主体とのつながりを“まもる”（環境計画-重点戦略Ⅰ（p17））	市民・事業者・市民団体・大学などと協働した取組の推進 ・京エコロジーセンターの運営協会や大阪学院大学との連携に加えて、今後も多様な団体と連携しつつ活動を展開する姿勢を高く評価します。相互の情報交換や連携協力は非常に重要です。 ・大阪大学や大阪学院大学だけでなく、吹田市内の他の大学とも連携することが重要です。大学は各校あたり数万人もの学生が在籍するため、市の廃棄物行政においても重要かと思えます。 ・吹田市内の団体や学校との連携事業に加え、他市の団体との連携した取組も始まっています。こうした地域を超えた連携は吹田市の環境行政の発展に寄与するだけでなく、他市の模範にもなるものです。 ・地元の中小企業や商店など事業者との連携がまだ限定的であり、新しい取り組みへの挑戦や工夫は見えにくい状況ですが、これまでの実績を踏まえて、今後の展開に期待します。 ・大阪関西万博への参画、動画コンテストの実施、大学や他の財団法人との連携など、令和7年以降の外部連携の推進が大いに期待できます。
	（3）未来につながる環境を“まもる”（環境計画-重点戦略Ⅱ（p19））	ごみの削減や再利用に関する啓発活動及び情報提供 ・本年度に多言語パンフレットの充実が図られましたが、今後は簡単な英語で対応可能な職員の配置も望まれます。 ・市民や利用者からの質問や希望は、FAQという形でも構わないため、HPやSNSで公開する必要があります。 ・市役所と連携し、多様な市民を対象にした啓発活動が活発に行われており、参加者の満足度調査なども適切に実施されています。 ・利用者の声を積極的に反映し、施設サービスは年々向上しています。また、改善が困難なロケーション・構造上の指摘にも、サービス提供場所の変更やtononouプロジェクトによる施設センスアップなど、積極的な改善姿勢が見られます。
	（4）2Rを優先したごみ減量（処理計画-重点施策1（p33））	環境教育・環境学習に関する取組 ・何事も子供の時から早期教育が重要であり、環境教育も同様です。大人になってから環境の重要性に気付くのでは遅すぎるため、キッズ環境スクールは今後もぜひ充実させてください。 ・学校との連携は、長年の信頼関係を基盤として、活発に実施されています。 ・市民型研究や講座、子供たちへの教育など、将来を見据えた長期的な事業を、高く評価します。 ・学校の見学対応や体験学習に加えて、学校や子供たちのニーズをより発掘ください。 ・吹田市内の全小学校を対象とする施設見学を継続して行っており、環境教育のきっかけとして非常に重要な役割を果たしています。
2 長期的に安定して管理運営するための高度な専門性、経験やノウハウ	長期的に安定して管理運営するための人員体制	・給与水準が低いため人員募集の応募が少なく、採用も難しい状況です。この問題の改善に向けて、自主事業や事業収入の増加などの方策を鋭意検討してください。良い人材が確保できるかどうかは組織の将来を左右します。 ・職員の熱意は高く、限られた人材の中で活発に取り組んでいますが、専門スタッフの確保や長期的な人材確保・育成のためには、給与水準の向上が不可欠です。 ・社会的に人手不足が広がるなかで、職員個々の柔軟な働き方の推進とともに、多様な人材が参画できる仕組みを模索してください。 ・管理部門及び市民研究員の高齢化や出前授業の回数制限、イベント開催を月1回に制限する等の状況から、人材確保の課題が顕著です。正規・非正規・ボランティア問わず事業活動に関わる人材の拡充が求められます。
	施設を管理運営できるための財政基盤	・あまりうまくはいかなかったもののクラウドファンディングに挑戦し、課題や検討材料を得られたことは重要です。今後も積極的なチャレンジを期待します。 ・財政状況は極めて良好ですが、国債だけに依存した資産運用は、実質的な財産の減少につながりかねず、適切な資産運用の在り方の検討は喫緊の課題です。 ・厳しい財政状況の中で適切な管理運営しており、税制度のギャップによるものとはいえ、約200万円の返還金が出ていることを評価します。 ・自主財源の確保には、挑戦する意欲と時間の確保（通常業務に追われない余裕ある体制）が必要なので、クラウドファンディングとあわせて、他の可能性も検討ください。 ・自己財源の運用方法について、理事会でも継続して議題にあげられており、最善策を模索しています。賃金改善のための財源確保については、自己財源のみならず予算の見直しを含めた可能性を検討しています。
	施設の設定目的を達成するためのノウハウ	・施設の設定目的を十分に理解しています。